

3.4.5 廃棄物等

1) 項目及び検討手法

ここでは、嘉瀬川ダム建設事業による廃棄物等に対する影響の検討をどのように行うのかについて説明します。

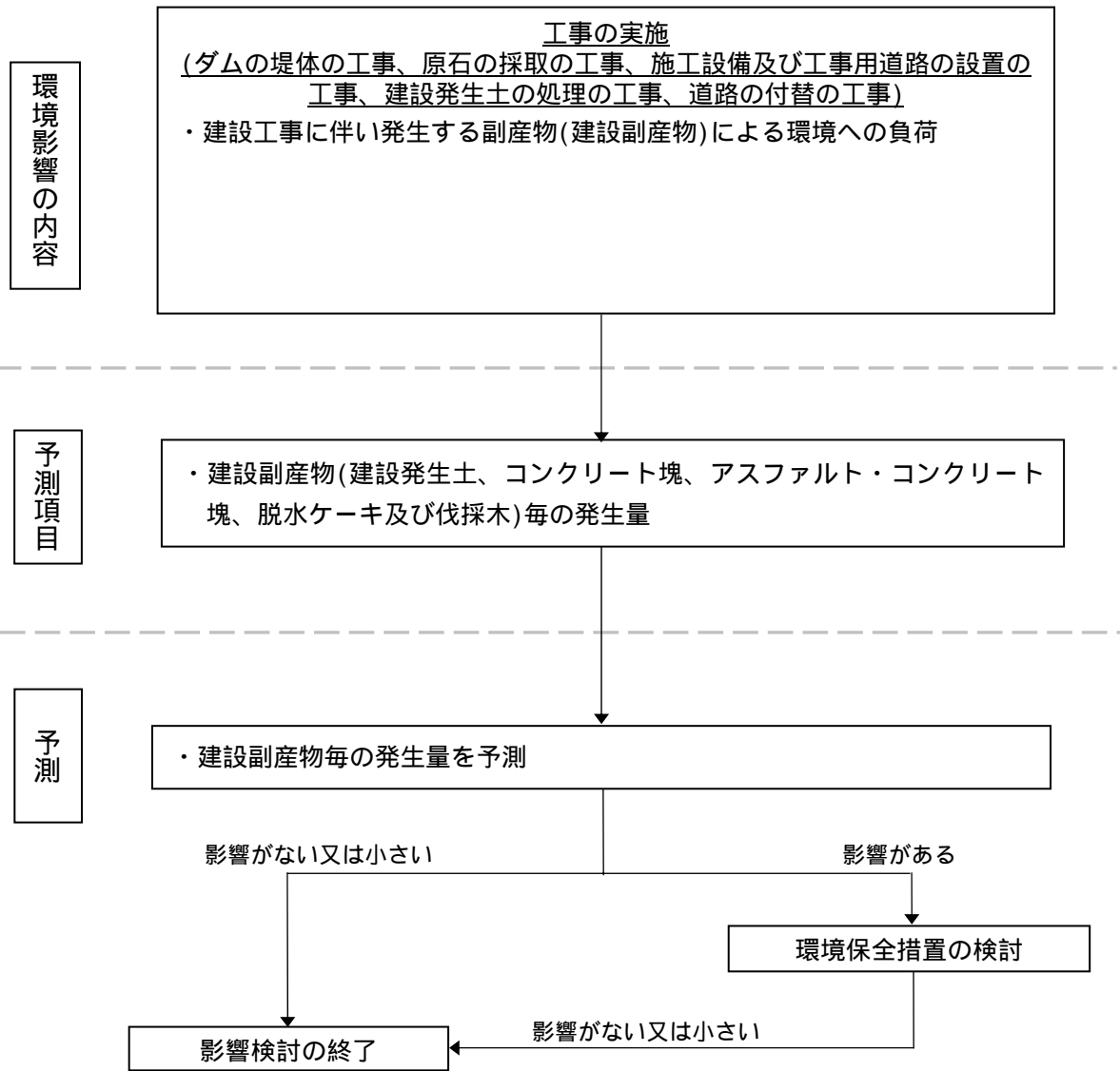
廃棄物等は、嘉瀬川ダム建設事業の工事の実施における建設副産物(建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、脱水ケーキ及び伐採木)を対象とし、建設副産物の発生による環境への負荷の量の程度について検討します。

具体的には、工事の計画から、建設副産物(建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、脱水ケーキ及び伐採木)毎の発生量を予測し、環境への負荷の程度を検討します。

(1) 影響検討の考え方

影響検討では、はじめにどのような視点で影響を検討すべきかを明確にした上で、調査及び予測を進めることが重要です。

廃棄物等に対する影響検討の考え方を図 3.4.5-1 に示します。



注)廃棄物等については、環境への負荷として建設工事に伴い発生する副産物の発生状況等を工事の計画から把握しますので、現地調査は行いません。

図 3.4.5-1 廃棄物等の影響検討の考え方

(2) ダム事業による廃棄物等への影響の想定

廃棄物等の影響検討において、対象とする影響要因と環境影響の内容を表 3.4.5-1 に示します。

表 3.4.5-1 予測対象とする影響要因

影響要因		環境影響の内容
工事の実施	ダムの堤体の工事 原石の採取の工事 建設発生土の処理の工事 道路の付替の工事 施工設備及び工事用道路の設置の工事	・ 建設工事に伴い発生する副産物(建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、脱水ケーキ及び伐採木)が、環境への負荷に影響を及ぼすおそれがあると考えられます。

(3) 予測手法

影響の内容を把握するための予測項目及び予測手法を表 3.4.5-2 に示します。

表 3.4.5-2 予測項目及び予測手法

予測項目	予測手法
・ 建設副産物(建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、脱水ケーキ及び伐採木)毎の発生量	・ 工事の計画より、建設副産物毎の発生状況について予測しました。

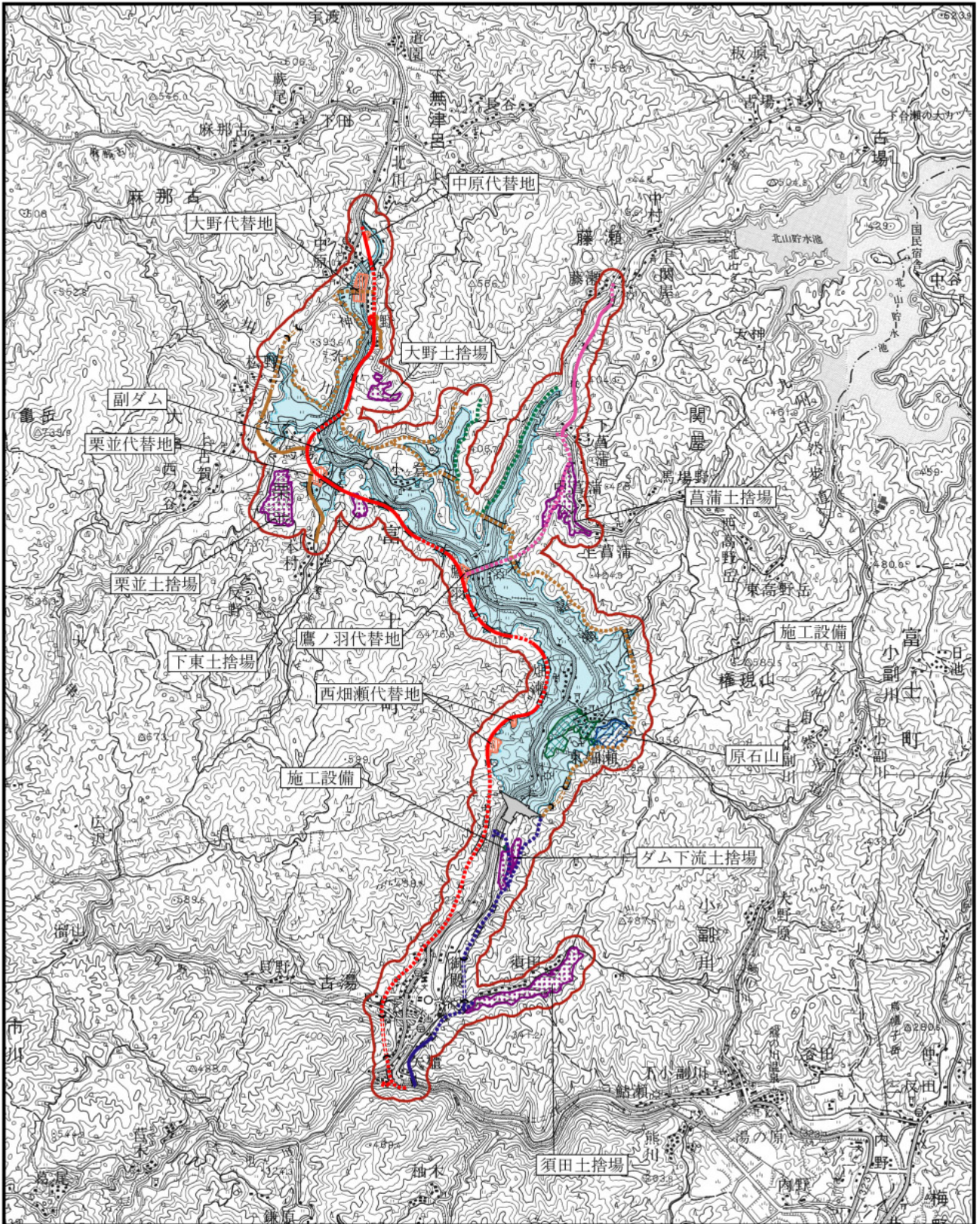
・ 予測地域の考え方

予測地域は、対象事業実施区域とします。

予測地域を図 3.4.5-2 に示します。

(4) 調査手法

廃棄物等については、環境への負荷として建設工事に伴い発生する副産物の発生状況等を工事の計画から把握しますので、調査は行いません。



凡 例

- | | | | | | |
|--|----------------------|--|--------------|--|--------|
| | : ダム堤体 | | : 付替国道 | | : トンネル |
| | : 副ダム | | : 付替国道(未完成) | | : 橋 |
| | : 貯水予定区域 | | : 付替県道 | | |
| | : 原石山 | | : 付替県道(未完成) | | |
| | : 土捨場 | | : 付替町道 | | |
| | : 代替地 | | : 付替町道(未完成) | | |
| | : 施工設備 | | : 付替林道 | | |
| | : 予測地域
(対象事業実施区域) | | : 付替林道(未完成) | | |
| | | | : 工事用道路 | | |
| | | | : 工事用道路(未完成) | | |



1 : 50,000

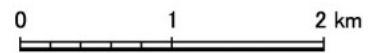


図3.4.5-2
廃棄物等予測地域

2) 影響予測結果の概要

建設副産物の予測結果を表 3.4.5-3 に示します。

表 3.4.5-3 予測結果の概要

項目		予測結果の概要
建設副産物	建設発生土	建設発生土については、対象事業実施区域内に計画された土捨場や盛土等への流用により、対象事業実施区域内で十分に処理可能であり、環境への負荷は生じないと予測されます。
	コンクリート塊	コンクリート塊については、仮設備基礎、ケーブルクレーン基礎、上下流仮締切の撤去等により、約 20,000m ³ 発生することから、環境への負荷が生ずると予測されます。
	アスファルト・コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊については、対象事業実施区域内の既存供用道路の撤去により約 5,000m ³ 発生することから、環境への負荷が生ずると予測されます。
	脱水ケーキ	脱水ケーキについては、約 52,000m ³ 発生することから、環境への負荷が生ずることから、環境への負荷が生ずると予測されます。
	伐採木	伐採木については、貯水池、原石山等の樹木の伐採により約 280,000m ³ 発生することから、環境への負荷が生ずると予測されます。

3) 環境保全への取り組み

予測の結果、影響があると考えられた建設工事に伴う副産物について、環境保全措置を検討します。

環境保全措置の検討の結果を表3.4.5-4に示します。

表 3.4.5-4 環境保全措置の検討結果

項目	環境影響	環境保全措置の方針	環境保全措置	環境保全措置の効果
建設工事に伴う副産物	コンクリート塊	環境への負荷が生じます。 コンクリート塊の発生量を抑制し廃棄物としての処分量の低減を図ります。 発生したコンクリート塊の再利用を促進し廃棄物としての処分量の低減を図ります。	発生の抑制 ・コンクリート塊とその他鉄くず等の有価物との分別を図ります。 再利用の促進 ・破碎等の所要の処理を行い、盛土材、路盤材、埋戻し材等として再利用を図ります。	発生の抑制及び再利用の促進により、コンクリート塊の処分量が低減することから、事業者の実行可能な範囲内で環境への影響はできる限り回避・低減されていると考えられます。
	アスファルト・コンクリート塊	環境への負荷が生じます。 アスファルト・コンクリート塊の発生量を抑制し廃棄物としての処分量の低減を図ります。 発生したアスファルト・コンクリート塊の再利用を促進し廃棄物としての処分量の低減を図ります。	発生の抑制 ・アスファルト・コンクリート塊とその他砂利等の有価物との分別を図ります。 再利用の促進 ・破碎等の所要の処理を行い、盛土材、路盤材、埋戻し材等として再利用を図ります。	発生の抑制及び再利用の促進により、アスファルト・コンクリート塊の処分量が低減することから、事業者の実行可能な範囲内で環境への影響はできる限り回避・低減されていると考えられます。
	脱水ケーキ	環境への負荷が生じます。 脱水ケーキの発生量を抑制し廃棄物としての処分量の低減を図ります。 発生した脱水ケーキの再利用を促進し廃棄物としての処分量の低減を図ります。	発生の抑制 ・濁水処理施設による機械脱水等を適切に行い、効率的に脱水ケーキ化を行います。 再利用の促進 ・強度の向上等の所要の処理を行い、盛土材、埋戻し材等として再利用を図ります。	濁水処理施設の適正稼働等による発生の抑制及び再利用の促進により、脱水ケーキの処分量が低減することから、事業者の実行可能な範囲内で環境への影響はできる限り回避・低減されていると考えられます。
	伐採木	環境への負荷が生じます。 伐採木の再利用を促進し廃棄物としての処分量の低減を図ります。	再利用の促進 ・有価物としての売却やチップ化等を行い、再利用を図ります。	再利用の促進により、伐採木の処分量が低減することから、事業者の実行可能な範囲内で環境への影響はできる限り回避・低減されていると考えられます。